

令和元年度商店街サポーター創出・活動支援事業成果発表会 質疑応答

■ 街角企画株式会社

評価：マッチングシステムを構築した上で、本事業年度という短い期間の中で 2 件の空き店舗のマッチング調整をし、1 件についてはマッチングされ、実施計画まで立てられた点は高く評価できる。

Q：事業の目標であった商店街の不足業種の充足、空き店舗の解消については達成されたのか。

A：達成される見込みとなっています。

Q：解決すべき課題であったファミリー層の取り込みについてはどうか。

A：誘致予定の業種（商店街の不足業種であった飲食店等）は若年層やファミリー層をターゲットにしているため、取り込める見込みとなっています。また、今後、空き店舗活用とあわせて、子育て世代が夕方に商店街に立ち寄るしかけも計画しているため、さらに取り込めるのではと期待しています。

Q：マッチングシステムにおいて、連携協定先が 1 団体でなく、複数にした理由はあるのか。また、今後の実施主体・費用面などの運用はどのように考えているのか。

A：ひとつの団体だけでなく、複数の団体と締結したのは、それぞれ得意とする業種が異なるため、今後想定される多様なケースに対応するためです。

また、今後の実施主体は商店街で、案件が生じた際、随時、協定を結んでいる団体に照会します。費用は、原則無料で、実費等が生じる場合は、都度、協議します。